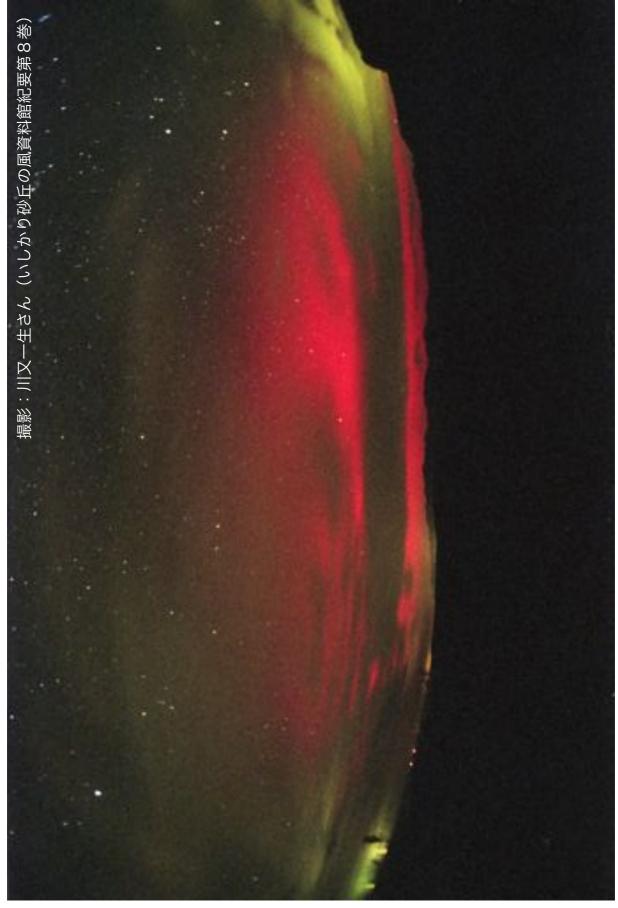
# いしかり砂丘の風資料館 紀要 第8巻

### **BULLETIN OF THE ISHIKARI LOCAL MUSEUM**

Volume 8



口給1,1989年に北海道厚田で撮影された低緯度オーロラの写真。(1989年10月21日,撮影:川又一生さん)

-i -

# 口絵1. 1989年に北海道厚田で撮影された低緯度オーロラの写真 Photograph of low latitude aurora in Atsuta, Hokkaido, Japan in 1989.

1989年10月21日,北海道厚田村(現 石狩市厚田区)で低緯度オーロラが撮影された。

その写真が、石狩市立厚田小学校内にパネルとして 掲示されていた。パネルには撮影者名は記載されてい なかったが、聞き取り調査等の結果、札幌市の川又 一生さんが厚田村小谷で、当日21時06分から撮影し たものと判明した。

オーロラは通常は極圏で観測されるが、稀に大規 模なものが発生した際には比較的低緯度の地域でも 見られることがあり、これらは「低緯度オーロラ」



と呼ばれている. ほとんどの場合, 明瞭な構造をもたない赤色光が特徴である.

画面には北極星を中心とした星空が写っているが、画面中央から下端の地平線にかけての空が赤色に光っているようすが明瞭に撮影されている。撮影した川又さんによると、赤い光は山火事のように明るかったという。

(志賀 健司)

# A 13:26 LNGタンクの見 かけの形の時間 濒化. LNGタンク D 13:41 焦点距離1000mm相当(35mmフィルム換算)の望遠レンズで撮影. 画像 2017年5月4日, 古潭漁港の防波堤から撮影, 13時過ぎ, 石狩湾新港の LNGタンクが上下方向に変形して見えるのを確認した(A). 変形はゆっく 口絵2. 古潭 (北海道石狩市) から観測された石狩湾の上位蜃気楼. りと上下方向に伸縮し(B), 蜃気楼化の範囲はタンクの左方(南方, C) へ移動したり,またタンク寄りに戻ったりを繰り返した(D). 蜃気楼範囲の水平方向の移動. はコントラストを調整している.

## 口絵2. 古潭(北海道石狩市) から観測された石狩湾の上位蜃気楼 Superior mirage on Ishikari Bay observed from Kotan, Ishikari, Hokkaido, Japan.

2017年5月4日,北海道石狩市厚田区古潭から,石狩湾に発生した上位蜃気楼を観測した。厚田から記録されたのはこれが初めてと思われる。

上位蜃気楼とは、遠方の景色が上方に伸び上がって見える現象で、冷たい空気の層の上に暖かい空気の層が重なった気層構造が形成されたとき、光が屈折することによって実体の上方に虚像が生じるものである。国内では富山湾に面した魚津市が有名だが、石狩湾沿岸でも発生することが知られている(大鐘、2010)。石狩湾での観測事例のほとんどは湾西部の小樽周辺におけるものだが、湾奥部の石狩



からも観測されている(志賀・大鐘, 2012). それに対して湾北部の厚田からの観測例はこれまで知られていなかったが、今回、観測・撮影に成功した.

5月4日の13時過ぎ,石狩市厚田区の古潭港(北緯43度21分22秒,東経141度25分27秒)から石狩湾新港(南南西方向,距離20km)のLNGタンクが上下方向に伸びて見えるのを確認した。およそ20分の間,虚像(蜃気楼)はゆっくりと上下方向の伸縮を見せ,また蜃気楼化している範囲は水平方向の移動を繰り返した。

(志賀 健司)

#### 引用文献

大鐘卓哉, 2010. 2008年の石狩湾における上位蜃気楼「高島おばけ」の観測. 小樽市総合博物館紀要, 23:19-25. 志賀健司・大鐘卓哉, 2012. 石狩湾に発生した上位蜃気楼の石狩浜からの観測記録. いしかり砂丘の風資料館紀要, 2:41-44.



A: まな板<sub>.</sub> B: まな板正面.



В



C:カンジキの一部.

D:カンジキ復元図.

(北海道埋蔵文化財センター, 1997)

口絵3. 石狩川河口に漂着したアイヌ文化の木製品.

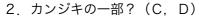
D

### 口絵3. 石狩川河口に漂着したアイヌ文化の木製品 Wooden tools of Ainu culture drifted ashore on the Ishikari estuary.

著者は冬季を除き、一日置きぐらいに石狩浜海水浴場から石狩川河口左岸までをビーチコーミングをしている。2017年はアイヌ文化の木製品とみられるものが数点採取された。

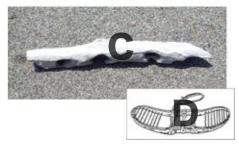
#### 1. アイヌ文様?のあるまな板(A. B)

7月23日,波打際から20mほど陸側で一枚の分厚い板を見つけた。長さ35.7cm,幅17cmと16.5cm,厚さ2.7cmの長方形の板である。取り上げてみると長辺の小口に彫刻があった。かなり風化しているが2本の向かいあう矢印とその中央にひし形の模様があり、内部にウロコ紋がある。



5月29日,河口左岸の砂嘴の先端で採取した長さ18cm,太さ2.5cmの棒状の木製品の破片で,直径1.5cm×1cm,深さ1cmの楕円形の穴が連続して開けられている。穴の存在からカンジキの





一部と考えられる。穴は雪に埋まるのを防ぐ横木(サキリ)を入れるためと考えられる。おそらく、これは単輪型瓢箪形(氏家、2006)のカンジキの一部であろう。

この種のカンジキは東北地方南部から北海道~サハリンに分布し、アイヌ語ではチンルで、流域のアイヌの人が使っていた可能性が高い。なお同種のカンジキは石狩紅葉山52号遺跡(中世から近世)でも出土している(石狩市教育委員会、2009)。

(石橋 孝夫)

#### 引用文献

石狩市教育委員会,2009. 石狩市紅葉山52号遺跡=札幌市K483遺跡発掘調査報告書. 氏家等,2006. ものとテクノロジー 北海道の物質文化研究. 北海道出版企画センター. 北海道埋蔵文化財センター(財),1997. 美沢川流域の遺跡群XX 第1分冊 埋文調査報告114集.



A:石狩浜に分布するハマニンニク (2016年5月撮影).



B:採取した直後のハマニンニク (2017年6月撮影).



C: Bを温室で数日経過(Bで開いていた葉がストロー状に細くなる).



F:よく乾燥させたハマニンニク (左から2017, 2015, 2014年採取/淡い黄金色/2017年12月撮影).



D:選別した葉をカビが発生しないように自然乾燥(2017年6月撮影).



E:Dの乾燥経過(淡い緑色~淡い黄色/2017年7月上旬撮影).



G:テンキ製作を紹介する展示コーナー.

#### 口絵4. テンキ製作の材料ハマニンニク.

#### 口絵4. テンキ製作の材料ハマニンニク

#### Leymus mollis, material for tenki weaving.

いしかり砂丘の風資料館では、ハマニンニク(海浜植物/イネ科の多年草/学名: Leymus mollis)の葉を材料にしたテンキ製作の体験講座を開催している(いしかり砂丘の風資料館主催、石狩浜海浜植物保護センター共催). テンキ製作の材料となるハマニンニクの葉を良好な状態で採取する時期を検討するために、石狩浜のハマニンニクの成長過程を観察してきた. また、採取したハマニンニクの葉の選別や乾燥についても、実験的な手順を重ねながら処理方法を検討してきた.

石狩浜では、3月末から4月初旬にハマニンニクの新葉が現れる。5月には青々とした葉を長く伸ばし(A)、6月中~下旬には一定の長さに達する。石狩浜では分布する範囲によって葉の長さの異なる傾向がみられるが、60~80cm程がよくみられ、長いものでは1m前後に達するものもある。体験講座で使用している葉はこの時期に採取しており、青々とした痛みの少ない葉を用意することができる(B)。















乾燥直後から数日経過すると,葉がストロー状に細くなる(C).少し乾燥したところで,葉を外側の葉・中間の葉・内側の葉に選別し,再び温室と自然乾燥を組み合わせて乾燥させると,畳のような淡い緑色になり,淡い黄色へと変化する(D,E).体験講座では,採取後約1 ヶ月乾燥させたものを使用しており,淡い黄色に青みが残る.さらに,半年以上かけてよく乾燥させると,光沢のある淡い黄金色の材料に仕上がる(F).2017年7月,1 年前(2016年6月)に採取した葉を水漬けにしたところ,柔らかさを取り戻し,テンキ製作の材料に使用することができた.材料に用いる葉の採取と処理は,緻密で精巧な実物テンキの製作には欠かせない工程の一つであったと考えられる.

(荒山 千恵)

# いしかり砂丘の風資料館 紀要

第8巻

## 目次

論 説				
石橋 孝夫:石狩浜漂着の魚叩き棒は誰のものか?―北海道魚叩き棒の系譜を 考える―	1			
志賀 健司:夕食のオカズに恐竜を見る一博物館におけるフライドチキン部分骨格標本製作学習の手法と意義―	23			
報 告				
志賀 健司:北海道厚田で1989年に撮影された低緯度オーロラ	31			
荒山 千恵:石狩紅葉山49号遺跡を活用した出張授業・出張展示の実施(4)	37			
荒山 千恵:テーマ展「土器文様の不思議―石狩市内の遺跡から―」および 関連講座について	43			
資料				
坂本 恵衣:厚田(北海道石狩市)の土門家土蔵で発見されたお札類について	···51			
口 絵				
	···i			
1989年に北海道厚田で撮影された低緯度オーロラの写真				
古潭(北海道石狩市)から観測された石狩湾の上位蜃気楼				
石狩川河口に漂着したアイヌ文化の木製品	$\cdots v$			
テンキ製作の材料ハマニンニク	···vii			